

美術館に 何が 起こったのか

「東日本大震災がアートに投げたこと」

「2011.03.24 気仙沼市内の陥3丁目の状況」

写真提供：リアス・アーク美術館

造形学部学内学会講演会 2019年 1月31日(木)

会場：常葉大学瀬名キャンパス

1号館4階 たちばなホール

開場 / 13:30 開演 / 14:00



講師プロフィール

山内 宏泰 氏

リアス・アーク美術館副館長、学芸員。

1971年5月1日、宮城県石巻市生まれ、現在は気仙沼市に在住。
1994年宮城教育大学中学校美術教員養成課程卒業。同年から美術家、舞台美術家、舞台衣装家として個展、舞台など多数に参加。
2006年に明治三陸大津波の実態を紹介する展覧会を企画。また、2008年には小説を出版。地域文化と津波の関係性を語り続けた。
東日本大震災を被災直後から現場に向き合いつつ命懸けて震災を記録し続けた。震災発生以降は各地で「津波の災害史、文化史」等に関する講演を多数行っている。

本講演では、山内氏に震災とアートを立脚点に、「震災をどのように表現するのか」「地域未来のためにどのように活かしていくのか」などのお話をさせていただきます。学生がファシリテーターを務め、ただ聞くだけではなく、参加型の講演会です。
「アートやデザインが自然現象・社会環境とどのように関わっていくべきか」「自分自身は何を求められ、どう表現できるのか」など、自分たちの持っている価値観や思想をより深く掘り下げる機会になるでしょう。
尚、本講演は1時間を山内氏の講演、30分を参加者との対談形式を予定しております。